



子どもたちに教えたい

ジオパークの魅力

profile

平成4年7月30日生まれ。秋田県出身。趣味は野球観戦。虻6区在住。30歳。

Spotlight

スポットライト



洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学術専門員

金田 皓樹さん

子どもに何かを教えることが大好きという金田さん。小中学校の理科教員として働く傍ら、学術専門員を志して勉強を続けていました。念願が叶い、これからは洞爺湖有珠山ジオパークで見識を深めて「自分で作った教材で子どもたちにジオパークのことを伝えたいです」と夢を膨らませます。

ジオパークについて学びきっかけが訪れたのは、故郷・秋田の秋田大学教育学部で学んでいた頃でした。苦小牧出身の火山学者、林信太郎教授などの教えを受け、ジオパークや防災を研究。洞爺湖町と同様にジオパークがある上、鉱山資料が豊富な地域で育った影響もあり、高校時代から地学に興味をもっていた金田さん。いつしか「地学系の仕事に就きたい」と夢を抱くようになっていました。

大学卒業後は地元の食品会社に就職し、広報担当としてイベント企画などに携わった

ものの「ジオのイベントがやりたい」と熱意は増すばかり。何より忘れられなかったのは、教育実習中の思い出でした。子どもの前で、手作りの教材を使って噴火のメカニズムを解説すると「目が輝いていて他の事を教えた時と反応が全く違いました」。食品会社から小中学校の教員に転身し、教え子たちと過ごす中で「いつか自分でジオパークの教材を開発したい」と決意しました。

これまでは北海道にほとんど縁がありませんでしたが、3月に引越して以来「食べ物がおいしいし、山・海・湖の全部がきれいな場所に住んだのは初めて。毎日楽しいです」と充実した様子を見せます。

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会は、今秋の世界ジオパーク再認定を目指して準備の真っ最中。「海外観光客向けのガイドなどを充実させて再認定のための力になりたいです」と意気込んでいます。

東奔西走

- 3 年ぶりにマスクの着用義務が無くなった今年の入学式。久しぶりに晴れ舞台上で子どもたちの笑顔を見ることができ、カメラ越しに明るい気持ちになりました。今年は様々なイベントで笑顔が見られそうなので今から取材が楽しみです。(D.Y)
- 4 月から広報担当に配属された新入職員です。5月号制作の取材では、きれいな景色を間近で見たり、心の温かい人たちと関わることができたりと、嬉しいことばかりでした。これからの活動も精一杯頑張ります。(Y.A)

今月のワンショット



洞爺湖町老人クラブ連合会
レクリエーション大会の参加者